

伊豆市生涯学習推進大綱

『地域社会を創る学び』と『自分を高める学び』のすすめ

伊豆市生涯学習推進本部

伊豆市生涯学習推進協議会

(平成18年3月)

は じ め に

「生涯学習」という言葉を聞いたことがないという国民の割合は、平成 17 年 5 月、全国の 15 歳以上の人を対象に内閣府が実施した『生涯学習に関する世論調査』によりますと、その割合は 20.1%にも及んでいます。伊豆市では、各地区で生涯学習地区推進委員長を中心に、地域ごとに活動が行われていることから、この割合は非常に少ないと自負しております。

近年の科学技術の進歩や産業の発達は、経済性や効率の良さを求めた結果、生活をするうえでの便利さをもたらしましたが、人間関係の希薄さや精神的な何かが欠乏しているように思います。こうした社会において、心温まる人と人との交流や、心の豊かさ・生きがいを求めていくうえで、生涯学習の担う役割には大きな期待が掛けられています。

生涯学習の重要性は誰もが認めるところであり、人々の学習意欲も益々高まりつつあります。伊豆市におきましても、公民館の利用者は年々増加し、各地区では、それぞれに特色ある活動が行なわれています。また、道行く花壇には美しい花が咲き、学校の校庭では、お年寄りが子どもたちとグラウンドゴルフを楽しむ姿も見られます。多くの人たちに「生涯学習」の認識が深まり、スポーツや地域まちづくり、そして各種の学習活動に励んでいる姿を見るにつけ、生涯学習の気運が市民の間に着実に浸透してきたと確信するものであります。

今回、ここに伊豆市生涯学習推進協議会が中心となり『伊豆市生涯学習推進大綱』が策定されました。合併 2 年を経過した伊豆市には、取り組むべき課題は山積しておりますが、今後は、生涯学習の分野の基盤整備や学習環境の整備に努め、行政として取り組むべき施策の指針を明示するとともに、市民との協働による「まちづくり」に向け、市民の皆様の御理解と御協力を得ながら、生涯学習が益々発展・充実していくことを願うものであります。

平成 18 年 3 月

伊豆市長 大城伸彦

伊豆市生涯学習推進大綱

第1章 はじめに

- 1 生涯学習とは
- 2 計画の期間

第2章 基本構想

1 基本理念

【地域社会を創る学びのすすめ】

【自分を高める学びのすすめ】

【「地域社会を創る学び」と「自分を高める学び」の融合】

2 基本方針

- (1)生涯学習で進めるまちづくり
- (2)生涯学習で実感する生きがいと学ぶ喜び
- (3)生涯学習で育むすこやかな心身

3 生涯学習社会が育む人づくり

- (1)地域に貢献できる力を備えた人になります
- (2)人とかかわれる能力を身に付けます
- (3)学ぶ意欲を高めます
- (4)豊かな情操を育みます
- (5)健康で強い体力を養います

第3章 基本計画 施策の方向と具体的施策

1 生涯学習で進めるまちづくり

- (1) 地域における特色ある生涯学習が一層推進されるように支援します。
- (2) 生涯学習ボランティアや地域づくりの指導者としての人材育成に努め、人材活用システムの構築に努めます。
- (3) 地域における伝統文化の保存と市民の文化・芸術活動の振興を推進します。
- (4) 社会参加活動を促し、奉仕活動・ボランティア活動の活性化を図ります。
- (5) 共通の課題を学習することによって集う新たな地域コミュニティの形成を支援します。

2 生涯学習で実感する生きがいと学ぶ喜び

- (6) 多様な学習機会を提供するとともに学習内容の充実を図り生涯学習の基盤づくりに努めます。
- (7) 読書活動の推進に努めます。
- (8) 生涯学習関連施設が有効に活用されるようにすすめます。
- (9) 学習情報の提供と相談体制の整備に努めます。

3 生涯学習で育むすこやかな心身

- (10) 生涯学習社会を生きる人としての基礎を培う学校教育の充実を図ります。
- (11) 市民の健康づくりと生涯スポーツの振興に努めます。
- (12) 心豊かでたくましい青少年の育成に努めます。

第4章 ライフステージに応じた施策の視点

- 1 乳幼児期...【元気よく遊び 自分のことは 自分でします。】
- 2 児童期...【よく遊び よく学び いろいろなことに挑戦します。】
- 3 青年期...【自分の考えを持ち 自信を持って行動します。】
- 4 成人期...【明るく楽しい家庭を築き 仕事や地域のために汗を流します。】
- 5 成熟期...【いつまでも健康で 生きがいを持って はつらつと活動します。】

伊豆市生涯学習推進大綱

第1章 はじめに

1 生涯学習とは

生涯学習という言葉が使われるようになるずっと以前から、生涯学習は行われていました。例えば、婦人会などと呼ばれていた女性の会では、忙しい家事や農作業の合間に、地域の女性が集会場に集まって様々な学習活動をしていました。また、三番叟や神楽などの地域の伝統芸能を継承するために、年配者の指導の下に若衆は学び続けてきました。あるいは、多くの人たちは、職業上の知識や技能の向上を目指して一生学び続けています。

そのような意味で、生涯学習とは、決して新しい考え方ではありません。むしろ、今より娯楽が少なかった頃のほうが、人々が学ぶ機会は多かったのではないのでしょうか。しかし、このような学びを生涯学習と捉える人はあまり多くないようです。平成17年3月に伊豆市民を対象として、生涯学習に関するアンケート調査を実施しました。(以下「調査」と表記します)

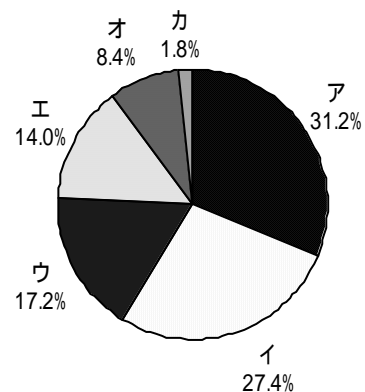
生涯学習に関するアンケート 調査	
実施期間	平成17年3月15日～25日
対象者	市内在住の20歳～69歳の男女700人を各地区の人口に応じて無作為に抽出
実施方法	郵送による
回収率	288人(回収率 41.1%)

この調査では、生涯学習について、次のような回答を得ました。

あなたは「生涯学習」についてどのようなイメージをお持ちですか。	
ア	公民館の講座や、企業が行なうカルチャーセンターの講座で学習すること.....(31.2%)
イ	本やテレビ・ラジオなどを通して、自分で自分の興味に応じた学習をすること...(27.4%)
ウ	地域でボランティア活動をしたり、みんなで地域の課題を考えたりすること.....(17.2%)
エ	地域のお祭り、花作りやイベント、又はスポーツ行事に参加すること.....(14.0%)
オ	自分の現在の職業や将来就きたい職業についての知識や技能を身に付けること...(8.4%)

1960年代～70年代に、「生涯教育(lifelong education)」(1)という言葉が

我が国に入ってきました。この「生涯教育」という言葉は、その後、国の答申などで「生涯学習(lifelong learning)」（ 2）という言葉に代えて使われるようになり、社会に広まるようになりました。しかし、その言葉はあまり聞き慣れない言葉でしたので、人々の間では、「生涯学習」とは何か特別なことをすることのように理解されていきました。「生涯学習」は、学校教育を終了した成人の学習活動である、というような捉え方もされてきま



した。ですから、先にあげた調査の結果に見られるように、「生涯学習」とは「ア講座で学習すること(31.2%)」とか「イ本やメディアを通して学習すること(27.4%)」というように、趣味を楽しんだり興味・関心のあることについての知識や技能を身に付けたりする活動である、というように考える人が多いのでしょうか。ともすると、「生涯学習」は、生活にゆとりがある人の余暇活動である、と考えられる一面がありました。平成9年の「静岡県生涯学習推進計画」の中では、生涯学習を次のように捉えています。

人々が、自らの人生をより豊かなものにしたいと願い、自分に合った学習の方法や内容を自由に選択しながら行なう、生涯にわたった学習です。

生涯をとおしての学習は、家庭教育、学校教育や社会教育の中だけでなく、広い範囲に及んでいます。例えば、自然や文化に親しみ、趣味、スポーツ、レクリエーションなどを楽しむ中での学習活動はもちろん、新しい知識や技術を身に付けて、職業生活の中に生かそうとするものなどです。

さらには、福祉や環境保全など様々なイベントによるまちづくりなども含まれます。

(平成9年8月 静岡県生涯学習推進本部「静岡県生涯学習推進計画」)

このように、生涯学習とは、自己の充実・啓発や生活の向上のために、各人が自らの意志に基づいて行なうものであり、自己に適した手段・方法を自ら選んで生涯を通じて行うものです。そして、その内容は、家庭教育、学校教育、社会教育をはじめとして幅広い領域に渡り、まちづくりなども含まれるものです。

2 計画の期間

この「伊豆市生涯学習推進大綱」は、「伊豆市総合計画」(3)や「伊豆市次世代育成支援行動計画」(4)等を踏まえ、総合的な見地に立って生涯学習推進のために策定したものです。この計画は、開始年度を平成 18 年度とし、平成 27 年度を目標年次としています。

また、「伊豆市総合計画」や「伊豆市次世代育成支援行動計画」は、5 カ年をおおよその目途とし、その後に見直しを図ることとなっています。その時期にあわせ、この「伊豆市生涯学習推進大綱」の見直しも図り、伊豆市の建設計画の中で、伊豆市民の実情にあった推進大綱であるようにしていきます。そして、行政としての責務を自覚し、これら計画や各種施策・事業等と連携を図りつつ生涯学習施策を積極的に展開していくものです。また、市民・民間にあってもこの計画をよりどころとし、生涯学習推進への積極的な取組みを期待するものです。

(1)「生涯教育(lifelong education)」

1965 年「ユネスコの成人教育推進国際委員会」(パリ)で、ポール・ラングランにより「生涯教育」の概念が提案されました。日本では、1970 年「生涯教育入門」(ポール・ラングラン著、波多野完治訳)が刊行され「生涯教育」という言葉が広がりました。

(2)「生涯学習(lifelong learning)」

1981 年の中央教育審議会の答申「生涯教育について」に、『今日、変化の激しい社会にあって、人々は、自己の充実・啓発や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めている。これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うものである。その意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい。』とあります。

(3)「伊豆市総合計画」

合併に際して作成された新市建設計画を基本として、平成 18 年度から 10 年間の伊豆市のまちづくりの指針を示したものです。これは、伊豆市が目指すまちの将来像を示すとともに、その将来像を現実のものとしていくための計画です。

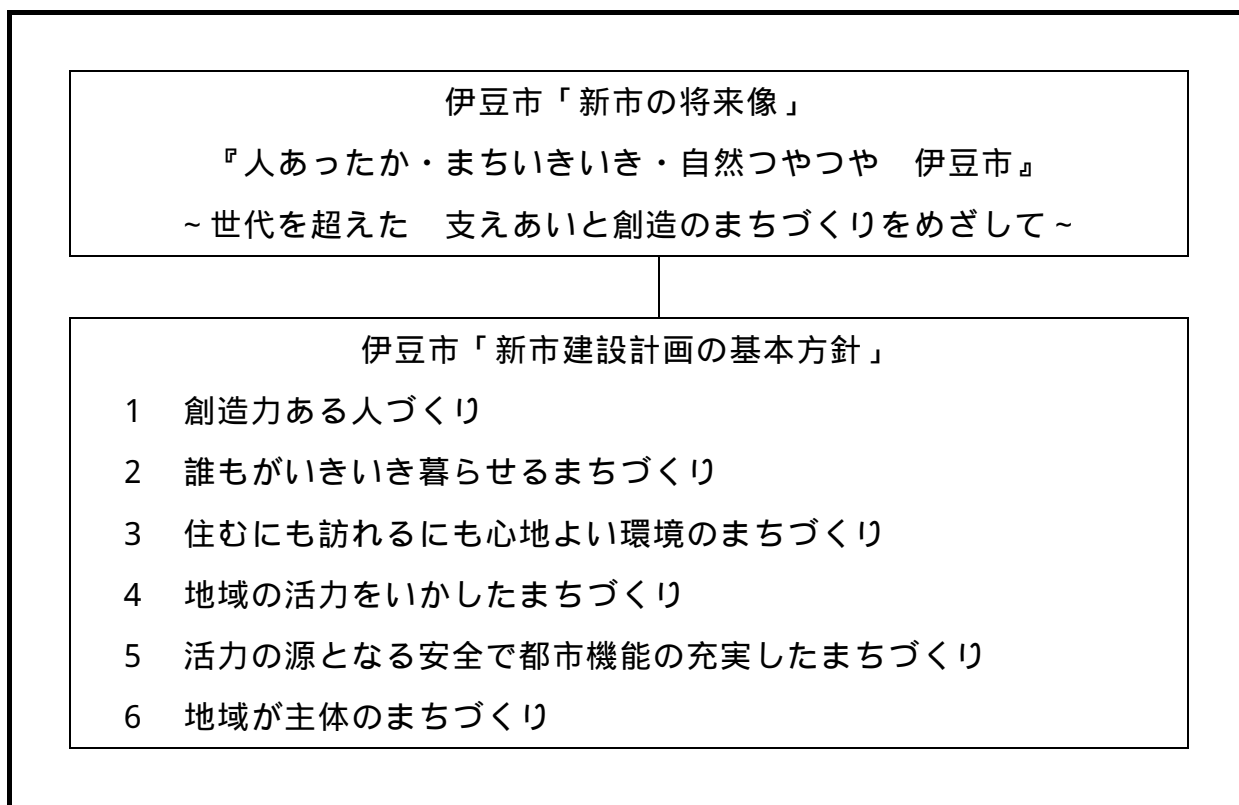
(4)「伊豆市次世代育成支援行動計画」

平成 15 年に国会で成立した「次世代育成支援対策推進法」に基づき、平成 17 年度から 5 年間の計画期間で推進される、伊豆市の子育て支援施策の指針とする計画です。

第2章 基本構想

1 基本理念

伊豆市の「伊豆市総合計画」では、「人あったか・まちいきいき・自然つやつや伊豆市」という「将来像」に向け、「人づくり」「まちづくり」に関する視点で、6つの基本方針を設定しました。この「将来像」を具現化する上で、生涯学習の分野は、大きな役割を担っています。



学習とは、新しい知識や技能、考え方、やり方などを獲得することです。しかし、このように定義してしまうと、多くの人が、学習することは「本を読むこと」だとか「講座で学ぶこと」などと難しく考えてしまいます。このことが、生涯学習を狭く限られた意味で捉える人を多くしてきた理由です。学習は、日常生活の中で「どうしたらよいだろう」「こうなったらいいな」という課題や願いから生まれてきます。このような課題を解決することや願いをかなえようとする過程で、絶えず新しい考え方を獲得し、より良いやり方を身に付けていきます。そこに、学習がなされているのです。そして、人は、より良く生きるために、生涯にわたって学習し続けることが必要です。

伊豆市では、「生涯学習」という言葉を広い意味で捉え、普段の市民の生活の中で「生涯学習」が行われているという考え方を提案し、市民がより良く生きるた

めに「地域社会を創る学びのすすめ」と「自分を高める学びのすすめ」を伊豆市の生涯学習を推進する基本理念としていきます。

【地域社会を創る学びのすすめ】

地域社会における様々な行事や催し物、奉仕活動などに参加することにより、地域社会における人々との交流の中で、地域で活動することの楽しさを学びます。また、それぞれの地域には、防災や防犯の問題、ごみの問題、あるいはお年寄りの生きがい作りや子どもを持つ家庭への支援など、解決が求められている様々な課題があります。このような課題を解決するために、伊豆市内では、既にサークルやボランティア団体、NPOなどの団体が様々な市民レベルでの活動を展開しています。こうした活動に参加したり新たな活動集団を形成したりすることで、地域の中での役割を見出し、生きがいのある充実した生活を送ることができるようになり、地域の新しい文化を形成していくというやりがいにつながっていきます。

このように、誰もが、住みよい社会を創っていくという自覚を持ち、主体的に地域社会に係わっていかうとすることが大切です。その過程で、人との係わり方を学び、地域の文化や自然を学び、より良い地域社会の創造について考え、地域に貢献できる力を備えた人になっていきます。

【自分を高める学びのすすめ】

調査によりますと、自分が自由に過ごせる余暇が「充分にある」または、「少しはある」と答えた市民が、合わせて62.5%にも及びました。そして、そのような余暇をどのように過ごしたいかという問いに、61.1%の人は「趣味を楽しむ」と応えています。

今日のように、物質的に豊かになった社会においては、人々の余暇時間が増加してきています。こうした余暇をどのように過ごすかによって、その人の人生は価値あるものとなり、輝きを増してきます。ボランティア活動を進める人、興味・関心があることを学習する人、趣味や教養を高めようとする人、など、自分にあった学習の内容や方法を自ら選択して学び、自分の資質や能力を高めていきます。

また、今日の社会は激しく変化している社会でもあり、その変化に対応するためにも学習することを怠ってはなりません。

こうした学びを通して、仲間ができ、知る喜びを味わい、技術の向上を自覚でき、生涯にわたって生きがいを持った生活がおくれる人になっていきます。

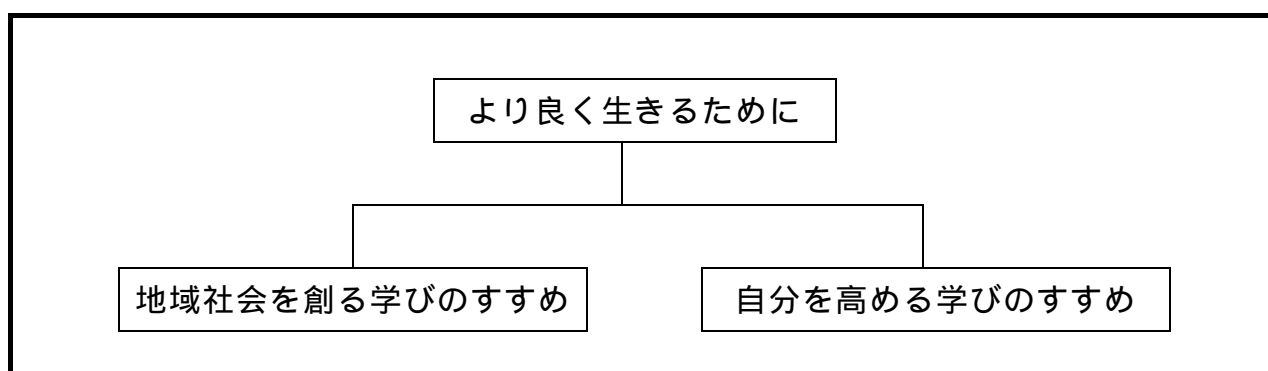
【「地域社会を創る学び」と「自分を高める学び」の融合】

地域社会を創る学びの中には、必ずしも、個人の要求や興味・関心に合致するものばかりとは限りません。だからと言って、このことを怠ると、地域社会の崩壊を来し、住みよい地域社会にすることは困難です。しかし、地域社会を創る学びと自分を高める学びは、すべてが相反するものではなく、お互いに融合された学びとなるのが数多くあります。

自らの興味・関心に基づく学習を進める仲間や、同じ趣味を共有する人たちの集まりなどは、新たな学びのコミュニティ（ 5 ）を形成し、地域の活性化につながります。また、例えば、地域の青少年の健全な育成を図るために行われる活動で、参加した人たちは、やがて子どもたちの笑顔に惹かれるようになり、それが喜びとなっていくことがあります。

このように、地域社会を創る学びと自分を高める学びの融合も含め、両者がバランスよく保たれた生涯学習社会を構築していくことが大切です。

以上のような、基本理念のもと、伊豆市では、市民の社会参加活動を支援していくとともに、市民の誰もが学ぶ意欲を高めつつ自分に適した手段や方法を自ら選んで学習していけるように、学習環境の整備に努めていきます。



2 基本方針

(1) 生涯学習で進めるまちづくり

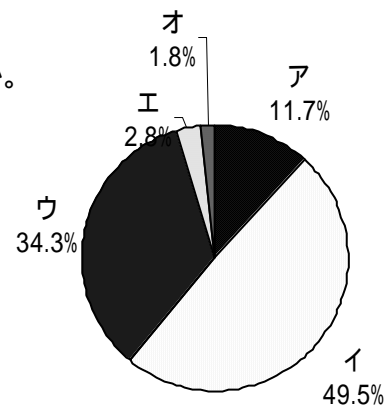
調査によると、伊豆市では「何らかの形で地域に貢献したい」と考えている市民の方が多いです。

あなたは、地域の行事や奉仕活動などに積極的に参加していますか。

- ア 積極的に参加している.....(9.4%)
- イ どちらかと言えば参加している方だ...(40.9%)
- ウ あまり参加していない.....(26.1%)
- エ まったく参加していない.....(23.6%)

あなたは、何らかの形で地域に貢献したいと思いますか。

- ア とても思う.....(11.7%)
- イ どちらかと言えばそう思う.....(49.5%)
- ウ どちらとも言えない.....(34.3%)
- エ どちらかと言えばそう思わない.....(2.8%)
- オ まったく思わない.....(1.8%)



このように、地域に貢献したいという市民の意欲は、地域づくり・まちづくりを進める上でたいへん頼もしく思えます。

伊豆市内のそれぞれの地域では、その地域の課題(こうあってほしいという願いや解決したい問題等)があります。例えば、「お年寄りが生きがいを持って生活してもらいたい」「元気に挨拶ができる子どもたちに成長してほしい」「若いお母さんたちのために、子育てについての相談にのってあげたい」「祭りや奉仕活動などの地域行事に、多くの人に出てもらいたい」「地域の伝統芸能を引き継いでいきたい」「ごみの投棄が多い」.....など、例をあげれば地域の数だけあげられるでしょう。

このような身近にある課題を解



決するために、地域に住む人たちが連携し集う活動の広がりが、地域づくりです。そして、地域づくりに取組む地域や人々を増やしていくことが、まちづくりです。生涯学習は、地域づくり・まちづくりの過程で「どうしたらよいたろうか」と学習していく中にもあるものです。伊豆市では、市民が生涯学習で進めるまちづくりに取組みます。

(2) 生涯学習で実感する生きがいと学ぶ喜び



生涯学習とは、自分の学ぶ意欲に基づき、自ら選択した内容と方法で生涯にわたって学習するものです。そして、そこで学んだ成果が、適切に評価される社会を生涯学習社会（ 6 ）とよびます。

伊豆市には、一芸に秀でた方がたくさんいます。そのような方々に、自分が得意な分野を他の人に

教える機会を設け、学びたい人が自由に選択して学ぶことができるようなシステムを構築していきます。例えば、幼稚園や小・中学校で外部講師として活躍していただいたり、地域の集会場や公民館で講座を開設していただいたりします。学びたい人と教えたい人が出会うことは、お互いに大きな喜びとなります。

伊豆市では、学びたい人と教えたい人が出会えるシステムの構築に努め、学び合い教えあうことによって、そのことが生きがいと感じられるような社会を創ることを目指していきます。

調査では、市民の半数以上の方は、自分の余暇活動として「自分の趣味を探す、または趣味を伸ばす講座」に参加したいと考えています。趣味を持つことによって、潤いのある生活を送ることも可能になります。

また、平成 18 年現在の伊豆市の年齢別人口構成(5 歳階級別人口)を見ると、55 歳から 59 歳の人たちが最も多く(7)、全国的に言われている団塊の世代の人たちの人口構成は伊豆市でも例外ではありません。今後、こうした人たちが職を離れ地域で活動する機会が多くなったとき、地域にとっては大きな戦力となるはずですが、それぞれの地域で、また行政としても、こうした人たちが伊

豆市の生涯学習の振興に力添えをしてくれるような体制を整えていかなければなりません。

あなたは、どのような講座に参加したいと思いますか。

- ア、自分の趣味を探す、または趣味を伸ばす講座.....(59.6%)
- イ、専門性を身に付ける講座.....(16.5%)
- ウ、環境・人権・ゴミ問題・男女共同参画など現代的な課題に関する講座.....(7.0%)
- エ、地域のリーダーやまちづくりを進めるリーダーを養成する講座.....(1.1%)
- オ、地域の文化財や地域の産業・人々の生活など、地域を理解するための講座.....(15.1%)
- カ、その他.....(0.7%)

これからの伊豆市を考えたとき、市民にとって、今後、どのような学習活動が必要だと思いますか。(2つ以内選択)

- ア、子育てについての家庭教育に関する学習.....(19.8%)
- イ、体験活動を中心とした健全育成をめざす青少年の学習.....(25.7%)
- ウ、趣味や教養に関する成人の学習.....(25.0%)
- エ、環境・人権・ゴミ問題・男女共同参画など現代的な課題に関する学習.....(21.2%)
- オ、健康維持、体力増進を図るスポーツ活動.....(30.2%)
- カ、地域の文化財理解や文化財の保護・活用を図るための学習.....(18.1%)
- キ、趣味を作り、生きがいを生み出すための高齢者の学習.....(35.4%)
- ク、その他.....(1.4%)

(3) 生涯学習で育むすこやかな心身

すこやかな精神と、すこやかな身体を持ち続けることは、誰もが願うことです。明るく楽しい家庭を築くこと、子どもたちが健全に成長していくこと、お年寄りが健康であること、市民が助け合う心を持つこと、このような社会を築くことが大切です。精神的、身体的なゆとりは、学習を進める上での基盤となります。

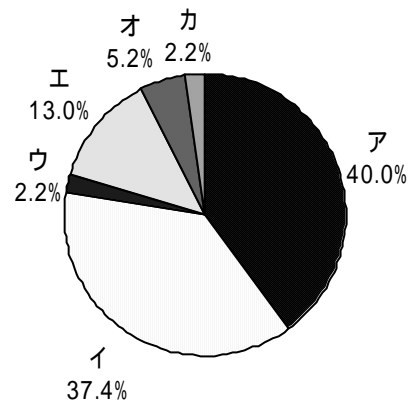


中でも、スポーツは、体力の維持・向上に役立つばかりではなく、コミュニティの形成が図られ、親子や家族・地域の人々の交流が進み、そして高齢者の生きがいくくりにもつながります。調査の結果にもあるように、市民の多くの方は、競技スポーツよりむしろ誰もが参加できるような軽スポーツの普及を望んでいます。そのことは、このようなスポーツの効用を期待しているあらわれだと考えられます。

あなたは、これからのスポーツ環境について、どのようになればよいと考えますか。

- ア、誰もが参加できるような軽いスポーツを行える機会が多くあるとよい.....(40.0%)
- イ、色々な種目のスポーツが準備されていて自分が選んで行なえるとよい.....(37.4%)
- ウ、たくさんのチームがあって、皆どこかに所属し、定期的に活動するとよい.....(2.2%)
- エ、地域の人たちがときどき集まって、そこで軽い運動ができるとよい.....(13.0%)
- オ、地区対抗のスポーツ祭や競技会が多くあるとよい.....(5.2%)
- カ、サークルやクラブチーム対抗の大会が多くあるとよい.....(2.2%)

伊豆市では、自分の興味に基づき、自分の体力に応じたスポーツを選択し、生涯にわたってスポーツに親しむことができる社会の構築に努めていきます。また、子どもたちの健全育成のために、地域で子どもを育む体制作りを努めるとともに、子どもを持つ家庭を地域で応援する機運を盛り上げていきます。



3 生涯学習社会が育む人づくり

伊豆市の生涯学習が発展することにより、市民が互いに協力し合い、同じサークルの人たちと学びを深め、友人とともにスポーツで汗を流し、子どもたちの笑顔に囲まれて、いきいきとした生活をおくれるようになります。そのような社会をみんなで築くと同時に、そのような社会が、より豊かな人生を過ごすことができる人々を育てていきます。

(1) 地域に貢献できる力を備えた人になります

住みよい地域社会の形成に主体的に係わり、地域の伝統文化の継承と新たな文化の形成に取り組みます。そして、地域社会の重要な一員であることを自覚し、地域にとってかけがえのない人として行動していきます。

(2) 人とかがわれる能力を身に付けます

地域社会を創る学びや自分を高める学びのもとに集う仲間と新たな学びのコミュニティを形成し、互いの立場を尊重して行動していきます。そして、思いやりの心を持って人と接し、周りの人たちと協力して活力ある社会の形成に努めていきます。

(3) 学ぶ意欲を高めます

学ぶ楽しさや仲間と過ごす喜びを体感していきます。そして、新しく身に付けたことを更に発展させようとして、新たなチャレンジ精神が湧いてきます。

(4) 豊かな情操を育みます

未知なる世界に踏み込み、新しい発見に驚き、技術の向上を体感していきます。そして、感動する心やワクワクする気持ちが膨らみ、生きる楽しさを感じていきます。

(5) 健康で強い体力を養います

スポーツを通して、健康の維持や体力の向上が図られ、精神的なストレスが解消され、健全な心身を育てていきます。そして、身体を健康を長く保つことができ、病気や怪我にも強い体力を持つことができます。

(5) 新たな学びのコミュニティ

今までの地域社会は、町内会・自治会などの地縁的關係で住民が参加するコミュニティが中心でした。しかし、住民の価値観が多様化する中で、こうした組織だけでは地域を支えきれなくなってきました。その一方で、サークル活動やNPOなど共通の目的を持つ人々が自主的に集まった活動が広まってきています。このように、地域課題を含めた共通の学習課題のもとに集う「新たな学びのコミュニティ」が形成されてきています。

(6) 生涯学習社会

1992年の生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」では、『人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が社会において適切に評価されるような生涯学習社会を……』とあります。

(7) 55 歳から 59 歳の人たちが最も多く

伊豆市の 5 歳階級別人口 (平成 18 年 1 月 1 日現在) では、55 歳から 59 歳の人口が最も多く (全人口の 8.8%) 以下、50 歳 ~ 54 歳 (7.4%)、60 歳 ~ 64 歳 (7.3%)、65 歳 ~ 69 歳 (6.9%)、70 歳 ~ 74 歳 (6.7%)と、なっています。

第3章 基本計画 施策の方向と具体的施策

第2章の「基本方針」の中で示した生涯学習推進施策の枠組みにしたがい、伊豆市として取り組むべき事業の基本計画を以下のように定めます。

ここでは、先にあげた「生涯学習で進めるまちづくり」「生涯学習で実感する生きがいと学ぶ喜び」「生涯学習で育むすこやかな心身」の3つの基本方針に沿って項を立て、12の施策の方向を定めました。しかし、各項の中にあげた(1)～(12)の施策の方向は、3つの基本方針のどこかに明確に位置づけられるものではなく、様々な要素を含んでいるものです。そこで、この章では12の施策の方向に通番号をつけて、それぞれについて具体的な施策を定めました。

学習活動は個人の自由な意思に基づいて行なわれるものですが、生涯学習の中には、仲間を呼び、新たなコミュニティを生み出し、社会の活性化をもたらすものが多くあります。そうした生涯学習の特質を最大限に活かし、伊豆市の生涯学習が社会全体で息づくようにするために、具体的な施策を規定していくこととしました。(以下【 】で示した課名は、その具体的施策を中心となって推進する課です。)

1 生涯学習で進めるまちづくり

(1) 地域における特色ある生涯学習が一層推進されるように支援します。

地域住民が主体となって進める生涯学習活動が、一層活発になるように支援します。【生涯学習課】

健康づくり、レクリエーション、軽スポーツ、子育て学習、地域学習等地域住民の学習ニーズに応じて、講師や指導者を住民が集まりやすい地区集会場や地域の広場に派遣します。

【生涯学習課】

祭典、清掃活動、地域防災活動等の地域行事に青少年が積極的に参加するように勧め、青少年を地域で育む気運が醸成されるように支援します。【生涯学習課・総務課】

地域で気軽に相談できるアドバイザーの育成に努め、子育てを地域で応援



する体制を整えます。【生涯学習課・社会福祉課】

地域における生涯学習の推進役を担う生涯学習地区推進委員長を各地区に委嘱します。【生涯学習課】

社会教育関係団体の育成・支援に努めます。【生涯学習課】

(2) 生涯学習ボランティアや地域づくりの指導者としての人材育成に努め、人材活用システムの構築に努めます。

ワークショップ（ 8 ）
の手法を取り入れた講座を開
設し、地域づくりのリーダー
となる人材を育成します。【生
涯学習課・企画課】

生涯学習地区推進委員長
の研修会を開催し、各地区で
特色ある生涯学習活動を進め
るリーダーとなるように支援
します。【生涯学習課】

地域の歴史や文化を後世に伝承するためのボランティアガイドの養成を
図ります。【生涯学習課・観光商工課】

地域における健康教室などで軽運動を指導できるボランティアの養成を
図ります。【健康増進課】

(3) 地域における伝統文化の保存と市民の文化・芸術活動の振興を推進します。

地域の資料を収集整理すること
と資料館の整備を進めます。【生涯
学習課】

市内の文化財を市内外に紹介す
るとともに、学校教育の場でも積
極的に活用します。【生涯学習課・
学校教育課】



文化財の保存のために必要な援助を実施し、文化財の保護に努めます。【生涯学習課】

地域における伝承活動を支援し、民俗芸能等の無形文化財の保存と継承を図ります。【生涯学習課】

市民が文化財について学習するときの利便を図り、市民の文化財保護の意識を高めます。【生涯学習課】

市民の文化的活動がより一層盛んになるように、関係団体の育成と活動の支援を行います。【生涯学習課】

コンサートや講演会等を企画し、市民が身近に質の高い文化や芸術に触れることのできる機会を設けます。【生涯学習課】

食に関する文化等への認識を深めるように努めます。【健康増進課】

街並みや里山景観の維持を図るよう支援します。【生涯学習課・農林漁業整備課】



(4) 社会参加活動を促し、奉仕活動・ボランティア活動の活性化を図ります。

各地のNPOやボランティアグループの把握に努め、相互のネットワークを整備することにより、各グループの強化を図り、活動の活性化を促します。

【生涯学習課・企画課】

市をはじめとした各種団体が主催して開催する事業にイベントボランティアとして中高生の参加を呼びかけ、青少年の社会参加を促します。【生涯学習課】

ホームヘルプサービス、ショートステイ等を通じて、障害者の自立と社会参加を推進します。【長寿介護課】

小・中学校における福祉体験、福祉ボランティアを通じて福祉について学び、青少年のボランティア活動等の社会参加活動を実践する意欲を高めます。

【社会福祉課】

(5) 共通の課題を学習することによって集う新たな地域コミュニティの形成を支援します。

地域づくりや青少年の健全育成、子育てサークル、ボランティア活動等で自主的に活動している団体の把握に努め、連絡会を開催するなどして、各団体間のネットワークの構築に努めるとともに、これら団体の活動を支援します。【生涯学習課・企画課】



乳幼児を持つ親を対象とした家庭教育に関する学習の機会を充実させ、子育てについて悩みをうちあけ合える仲間づくりを支援します。【生涯学習課・社会福祉課】

生涯学習に関する講座や教室で学習した人たちが、自主性を高め主体的に活動していくように援助します。【生涯学習課】

市民が自由かつ安全にレクリエーション活動を楽しむことのできる「地域コミュニティ広場」の整備を推進します。【生涯学習課】

2 生涯学習で実感する生きがいと学ぶ喜び

(6) 多様な学習機会を提供するとともに学習内容の充実を図り生涯学習の基盤づくりに努めます。

指導者が自主的に学級・講座を運営するシステムを構築し、市民の多様な学習ニーズに応じることができるよう体制の整備に努めます。【生涯学習課】



生活体験や職業体験から得た知識や技術を持つ熟年者や高齢者の特技を生かした活動の場の充実を図ります。【生涯学習課】

生涯学習指導者を募集し、指導者人材バンクとして登録し、学習活動を希望する市民に講師を派遣する「いずの先生」事業を推進します。【生涯学習課】

高齢者を対象とした学習講座を開催し、学習者のニーズに応じたプログラムを企画することで、学ぶ楽しさと人と関わる喜びを体験できるように努め、高齢者の生きがいづくりを支援します。【生涯学習課・長寿介護課】

情報化社会・人権・男女共同参画社会・国際理解・環境問題等の現代的課題(9)に関する講演会や研修会等を企画し、市民意識の向上に努めます。

【生涯学習課・企画課】

市民文化祭を拡充するとともに学習発表会を開催し、市民が誰でも学習した成果を発表する機会が得られるように進めます。【生涯学習課】

保健師や栄養士による講座等を開催して家庭や職場での健康管理を促進し、日常生活の中で健康づくりを実践できるように進めます。【健康増進課】

各種講座や相談等による食育活動を推進し、乳幼児から高齢者までの食生活改善を支援します。【健康増進課】

高等学校で実施する公開講座や聴講制度に市民の参加を呼びかけ、市内の高等学校との連携を図ります。【生涯学習課】

(7) 読書活動の推進に努めます。

「伊豆市子ども読書活動推進計画」(10)に示された施策を推進します。【生涯 学習課・図書館課】

成人が子どもと本を通して関わる機会を充実させ、子どもの読書活動の推進を成人の生涯学習であると捉え、市民が本とともに生きるまちの構築に努めます。【生涯学習課】



市内の小中学校に学校図書館司書の配置を進め、青少年が好ましい読書習慣を身に付けるように努めます。【学校教育課】

図書館が生涯学習を進める上での基礎的な施設であるという認識のもとに、市立図書館のサービスの向上に努めるとともに、より市民に親しまれる図書館の運営に努めます。【図書館課】

市内の読み聞かせサークルやお話会等の自主活動団体の育成に努め、市民の自主的な読書活動の振興を支援します。【生涯学習課・図書館課】

(8) 生涯学習関連施設が有効に活用されるようにすすめます。

インターネットを活用して生涯学習関連施設の概要を見ることができるようにし、同時に申し込みのネット化等、予約手続きの簡素化に努めます。【生涯学習課】



児童・生徒の減少に伴う小・中学校の余裕教室等の学校施設を地域の生涯

学習施設として利用できる方策を検討します。【生涯学習課・学校教育課】

小・中・高等学校の施設を各地区のレクリエーション活動の拠点として活用できるよう努めます。【生涯学習課・学校教育課】

各種生涯学習関連施設の役割分担や施設間の連携強化を図り、施設に応じて指定管理者制度を導入するなどして、市民の利便性を図るとともに施設が有効に活用されるように努めます。【生涯学習課】

市民の利用する施設等に自己チェックのできる健康測定器具を設置し、自己健康管理について学習する機会が得られるように努めます。【健康増進課】

(9) 学習情報の提供と相談体制の整備に努めます。

ホームページ、広報紙、電話相談や対面相談等、様々な形で学習相談が実施されるようにし、学習を始めようとする人や学習を深めようとする人に、わかりやすい情報が提供できるように努めます。【生涯学習課】



関係機関とも連絡を取り合い、生涯学習に関する情報を各地区の生涯学習センター（ 11 ）と共有化し、近くにある生涯学習センターが相談窓口として機能するように整備します。【生涯学習課】

3 生涯学習で育むすこやかな心身

(10)生涯学習社会を生きる人としての基礎を培う学校教育の充実を図ります。

各教科の基礎基本の定着を図り、併せて「教えて考えさせる」、「学ぶ力を育てる」授業を進めます。【学校教育課】

特別活動や総合的な学習の時間、また中学校における部活動等で、地域の人々や他校の児童・生徒との交流活動を積極的に進め、他とかかわる力の育成を目指します。【生涯学習課・学校教育課】

情報化社会の中で、OA機器等を使いこなし、それを応用できる人材を育成します。【学校教育課】

ボランティア学習、体験学習等を通じて、学校、地域、家庭間の役割分担の確認をしながら、互いの連携を図ります。【生涯学習課・学校教育課】

学習活動の中で、地域の自然や資源を教材として活用することで地域への理解を深め、郷土を愛し郷土に貢献しようとする態度を養います。【生涯学習課・学校教育課】



様々なスポーツを体験することで、生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成に努めます。【生涯学習課・学校教育課】

(11)市民の健康づくりと生涯スポーツの振興に努めます。

中学校区あるいは既存体育施設等の範囲で、総合型地域スポーツクラブ（12）を設立し、スポーツの普及とスポーツを通して形成されるコミュニティの育成に努めます。【生涯学習課】

スポーツ関係団体の育成・支援に努め、成人の競技スポーツや青少年のス



スポーツ振興を推進します。【生涯学習課】

保健委員会、食生活推進協議会等の組織の育成を図り、活発な活動の推進に努め、地域に根ざした健康づくりを目指します。【健康増進課】

身近な場所で、散歩やジョギングができる散歩道を設定し、健康づくりへの活用を促進するとともに、無理なく進められるスポーツの振興を図ります。

【生涯学習課・健康増進課】

体育指導委員を中心として各種の軽スポーツの普及に努め、幅広い年齢層の市民にスポーツ活動への参加を呼びかけます。【生涯学習課】

関係機関と連携して健康づくり活動促進のためのイベント・講演会等を開催し、健康づくりの知識の普及を進めます。【健康増進課】

高齢者に対する健康相談等を充実するとともに、老人クラブ等による健康づくりへの支援を行います。【長寿介護課】

(12)心豊かでたくましい青少年の育成に努めます。

「うちの子にもよその子にも、子どもと正面から向き合っていますか」のキャンペーンを進め、地域で青少年を育てる気運の醸成に努めます。【生涯学習課】

全市民に参加を呼びかけ「伊豆市青少年健全育成会」の市民会議を立ち上げ、青少年の健全育成は全市民の責務であるという認識の拡大に努めます。

【生涯学習課】

各地域でその地域の特色を生かした青少年の体験活動の機会を充実させ、友人とともに体験することを通して社会性を育み、地域を愛し、地域に貢献できる青少年の育成を目指します。【生涯学習課】

地域の青少年声掛け運動（ 13 ）を進め、地域の大人たちに見守られているという安心感を子どもたちの心に育てます。【生涯学習課】

青少年指導員を委嘱するとともに、指導員の資質の向上を図り、青少年指導員を中心として青少年の非行を未然に防ぐことと、青少年を犯罪の被害から守る環境を整備することに努めます。【生涯学習課】

専門的知識を有する相談員を配置し、悩みを持つ青少年とその保護者等に対応する相談体制を整備します。【生涯学習課・学校教育課】

(8) ワークショップ

1920年ごろにアメリカで始められた学習の方法で、集団で行なう参加型の体験学習のことを言います。もともと、演劇や美術・音楽等の分野で始められましたが、現在ではまちづくりやビジネス、教育、行政の分野でも盛んに用いられています。椅子に座って講義を聴くことよりも、参加者全員が自分でやってみるという体験する場を重視し、なにかを作り出す学習方法で、その教育効果も評価されています。

(9) 現代的課題

1992年の生涯学習審議会「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」によれば『社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために、人々が学習する必要のある課題』として、例えば、生命、健康、人権、豊かな人間性、家庭・家族、消費者問題、地域の連帯、まちづくり、高齢化社会、男女共同参画型社会、国際理解……等をあげています。

(10) 「伊豆市子ども読書活動推進計画」

平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、伊豆市の子どもの読書活動の推進に関する施策の指針を示したものです。

(11) 生涯学習センター

伊豆市教育委員会の組織の中には、旧4町のそれぞれに生涯学習センターを置き、職員を配置して、各地区の生涯学習の振興にかかわる業務を担当しています。

(12) 総合型地域スポーツクラブ

平成12年に、国は「スポーツ振興基本計画」告示し、その中で、生涯スポーツ社会の実現のために全国の各市区町村において少なくとも1つは、総合型地域スポーツクラブを育成すること、としています。総合型地域スポーツクラブとは、複数のスポーツ種目が用意されていて、子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで、地域の誰もがそこへ行ってスポーツに親しむことができるというものです。

(13) 地域の青少年声掛け運動

静岡県青少年育成会議では、県教育委員会と連携し、地域で生活している青少年に、周りの大人の誰もが温かなまなざしを向け、声を掛け、積極的にかかわることを通して、青少年の健やかな成長を支援していこうという「地域の青少年声掛け運動」を平成12年11月から展開しています。大人から進んであいさつする、ほめる、認める、感謝する一言から、かわりが深まり、時に考えさせたり、注意したり等、地域の大人が様々な声掛けをすることで、積極的に青少年にかかわる社会を目指しています。

第4章 ライフステージに応じた施策の視点

前章の「基本計画 施策の方向と具体的施策」では、様々な場面における生涯学習の振興方策を定めました。この章では、そうした具体的施策と、人の生涯の各期に応じた課題に対応して取り組むべき生涯学習との関連を明らかにしていきます。ここでは、人の生涯を乳幼児期（就学前まで）、児童期（学齢期まで）、青年期（おおむね二十歳すぎ頃まで）、成人期（就業年齢時期）、成熟期（高齢期）という世代に区分しました。そして、生涯学習の側面から、それぞれの時期の課題を明らかにし、それらに応じた施策の視点をまとめていきました。それと同時に、各時期における期待される市民像を示しました。

市民にあっては、この章を参考に、施策の意図を理解されることを望みます。

1 乳幼児期 ... 【 元気よく遊び 自分のことは 自分でします。 】

【施策の視点】

乳幼児を持つ親たちの仲間づくりの機会を提供することや、地域で子育てについて相談できる人たちを養成することに努めます。また、乳幼児が、家族の愛情の中で、基本的信頼感を育み、情緒の安定や自立性・自発性を身に付けていけるように支援します。



〔地域社会を創る学びのすすめ〕

核家族化と少子高齢化の社会現象は、伊豆市でも顕著に現れています。出生率は年々減少し、家族の中の子ども的人数は減る一方です。また、市民のライフスタイルの多様化と個人主義の風潮は、隣近所の付き合いを疎遠にし、地縁関係で成り立っていた地域コミュニティが希薄化する傾向にあります。

そのような中で、乳幼児を持つ親たちは、かつてのように子育ての方法を父母や祖父母に教えられる機会は減り、地域に相談できる同じ境遇の人たちも少なく

なってきました。

そうした乳幼児を持つ親たちは、子育てについての悩みや不安を気軽に相談できる仲間を集い、新たなコミュニティを形成します。また、地域で子育てを応援する機運が高まり、遊び場の確保、読み聞かせ会やおはなし会の実施、防犯意識の高まり等住民のコミュニケーションが活発になります。

〔自分を高める学びのすすめ〕

乳幼児期の子どもたちは、親との関係の中で、基本的な信頼感を育みます。そして、暖かい家族の愛情の中で情緒の安定や自立性・自発性を身に付けます。乳幼児を持つ親たちが、子どもがそのような発達段階にあることを理解することは意義あることです。また、子どもたちにとっても、社会的行動の芽生える時期であり友人との交渉が始まるこの時期に、他の子どもたちと接する機会を持つことは価値ある体験となります。さらに、運動機能の発達に応じた体験をすることも重要なことです。

2 児童期

…… 【 よく遊び よく学び いろいろなことに挑戦します。 】

【施策の視点】

この頃の子どもたちが多くの時間を過ごす場所が学校です。学校は、生涯にわたって学習活動を続けていく基礎を培う場となるため、開かれた学校づくりを進める等、家庭や地域との連携を深めつつ、子どもたちの学習機会の充実を図ります。また、様々な体験や学習活動・読書活動等を通して生きる力をはぐくみ、創造力・思考力・表現力を身に付け、自立性・自発性を高めていけるように支援します。

〔地域社会を創る学びのすすめ〕

神輿を担いだり、伝統芸能を受け継ぐ主体となったり、地域における子どもとしての役割を大人たちから教わります。そして、地域の人たちとあいさつを交わすようになり、大人たちもそれに応え、「地域の子ども



は地域で育もう」とする気運が高まります。子どもは地域の宝であるという認識を持って子どもたちと接することが、大人たちに望まれます。

〔自分を高める学びのすすめ〕

生活体験や自然体験は、子どもの心を育む、といわれます。そうした意味からも、この時期に多くの体験活動の機会を得ることは、重要なことです。そして、体験を通して他者とのかかわりを深め、人間関係を上手に作る能力を高めていきます。

また、地域を理解し地域を学ぶことで、地域に誇りを持ち、地域のために貢献しようとする態度が育まれます。

3 青年期 …… 【自分の考えを持ち 自信を持って行動します。】



【施策の視点】

人や社会とのかかわりを通して、広い視野に立って考えるようになり、自我の確立を目指していけるように支援します。また、青少年健全育成会などの地域コミュニティ組織の充実を図り、地域の教育力の向上を目指します。

〔地域社会を創る学びのすすめ〕

青年を地域の行事に参加させるために、地域の人たちはいろいろに考えます。地域防災の上でも、青年は重要な戦力となります。地域においては重要なことを青年に任せることで、自己の存在感を実感し、地域への帰属意識を高め、将来の地域の担い手としての自覚を持つようになります。そのような青年を健全に育むために、大人たちは気づいたときに褒め・叱り・導き、青年に声をかけていくことが大切です。

〔自分を高める学びのすすめ〕

青年期の頃は、人や社会とのかかわりの中で、自己のあり方について深く考えていきます。このような時期に、ボランティア学習や奉仕活動等の社会参加活動

を体験し、人や社会と交わることは重要です。また、本に親しみ、未知なる世界を知り、想像力を養うことは欠かせません。また、スポーツをすることで生涯にわたってスポーツに親しむ態度が養われます。

4 成人期

…【 明るく楽しい家庭を築き 仕事や地域のために 汗を流します。】

【施策の視点】

地域において進められている独自の生涯学習が、一層推進されるように支援します。それと同時に、地域で活動する自主団体の育成と支援に努め、それら団体の社会貢献活動が市民から認められるような社会の形成に努めます。また、地域の生活文化の創造や趣味・教養を高める学習、あるいは健康についての学習などの機会の提供に努めます。そして、やがて来るべき成熟期に備えての生きがいづくりにつながる学習の機会の提供に努めます。



〔地域社会を創る学びのすすめ〕

地域の文化を創造する担い手として、様々な地域の活動に「公」の意識を持って参加していくことが大切です。また、同じことに関心を持つ仲間たちで、ボランティアグループや自主活動の団体を形成し、住民が住みよい社会を形成するために社会に貢献できる人として活動します。

〔自分を高める学びのすすめ〕

自分が興味・関心を持つことを深く追求しようとし、生涯にわたって学習しようとする態度が育まれます。そのような、趣味や教養を高め、余暇を過ごす活動が見つけられるような機会に恵まれることが大切です。また、健康についての学習を進めるとともにスポーツを通して心身の健康の維持に努めます。

5 成熟期

.....【いつまでも健康で 生きがいを持って はつらつと活動します。】

【施策の視点】

この時期の人たちが、知識と経験を生かして地域に貢献するとともに、地域社会の一員として積極的に活躍する機会の提供に努めます。また、日ごろ学習してきた成果が他の市民に認められるような場の設定に努め、生涯にわたって何かに挑戦する意欲を持てるように支援します。

〔地域社会を創る学びのすすめ〕

市内における高齢化の傾向は、ますます高まっています。特に、この数年のうち定年により離職する人たちが増加します。そのような人たちが、小・中学校や公民館や地域の集会場で、生活経験や職業経験から得た知識や技術を児童・生徒や地域の人たちに教える機会が得られれば、生涯学習の振興に大きく役立ちます。さらに、学習することから得られた仲間たちは、共通の話題を持つことで、（地縁、血縁、職業上の縁ではない）人間的なつながりが生まれます。

また、この時期にある人たちは、地域における習慣や古くから伝わる民話や言い伝えなどを若い者たちに継承していかなければなりません。

〔自分を高める学びのすすめ〕

自ら持つ知識や技能を人に伝えることや、新たな内容を学習することは、生活に潤いをもたらし、生きがいにもつながります。また、健康についての学習をするとともにスポーツで体を動かすことで、健康に関する自己管理ができるようになり健康な体を保つことができます。

